

# 令和3年度 事業報告 法人本部

## 1. 重点目標・課題

基本方針・・・新人事制度の確実な運用と中長期計画の経営理念に基づく「組織の活性化」

- (1) 組織の一体化
- (2) 優秀な人材の確保・新人事制度による人材育成
- (3) 生産性の向上
- (4) 財務の健全性の確保
- (5) ガバナンスの強化
- (6) リスクマネジメントの強化
- (7) 施設整備の実施
- (8) 地域における公益的取組み

### (1) 組織の一体化

理事会を毎月開催し、理事の審議に基づいた迅速な意思決定とガバナンスの強化、理事の職務状況に関する監督強化を図っている。

また、法人全体での情報の共有、各事業所とのベクトルの確認・調整により組織の一体化を図るため、理事会での決議事項を企画会議や運営会議等を通じて全職員に浸透させることを目指しており、企画会議において、理事会の決議事項を伝え、理事会で審議すべき議案についての情報共有を行い、各事業所との方向性の確認や調整に繋げた。

しかしながら、全職員への情報の伝達や情報の共有においては、「通知」等の発信・出状、共有フォルダーの活用などが不十分で反省すべき点が多く、今後の全職員への周知手段においてグループウェア導入等も検討していきたい。

### (2) 優秀な人材の確保・新人事制度による人材育成

#### 新人事制度の開始について

令和3年4月より新人事制度をスタートさせ、試行錯誤の中で初年度の運用を行った。新制度の最大の目的である評価の透明性と人材育成を浸透させるため、令和3年度においては、職員が制度内容について理解を深めることに注力し、下記の流れで研修を重ねながら運用を行った。今後も、「成長・貢献シート」を活用し、育成面談などを通しコミュニケーションを深化して、職員の成長および組織力の向上にも繋げていく。

<新制度導入後の流れ>

- ・令和3年4月 新人事制度カットオーバー
- ・令和3年4月 評価者研修（主任以上）
- ・令和3年5月 被評価者研修（3回に分けて実施）
- ・令和3年10月 評価者研修（主任以上）
- ・令和3年11月 上期評価実施

- ・令和3年12月 下期賞与支給
- ・令和4年2月 令和4年度昇格選考

### リクルート活動について

新卒者採用については、前年に引き続きコロナ禍の影響で、対面での接触を慎重に行いながら、その中でも先輩職員との懇談会等の工夫をしながら活動した。高校卒対象者へのアプローチは7月1日の解禁をうけ、近隣高校（丸岡高校、坂井高校、三国高校、福井農林、啓新高校、北陸高校、仁愛女子高校、福井高等学校、）への訪問を実施した。また、専門学校（大原学園、福井県医療福祉専門学校）への訪問も併せて実施した。大卒者への対応については大手求人サイト「マイナビ」を活用した募集を行い、その後、学園での説明会、見学会等を経て最終選考会を実施した。結果、令和4年度の新卒者は大卒3名となった。

中途採用については、ハローワーク、福井県社会福祉協議会を中心に採用活動に取り組んだ。正社員2名、パートタイマー3名の採用であった。尚、パートタイマー1名については令和4年4月よりコース変更により正社員となった。今後は「インディード」等の新しい媒体とハローワーク等既存の方法を織り交ぜながら実効性の高い採用活動を行っていく。

### （3）生産性の向上

総務課職員の業務棚卸と担当事業所のローテーションを行った。職員が互いの業務内容を理解し、併せて職員各人の能力向上に繋がるように今後も定期的に係替えを行う予定。また、決算・予算業務についても、従前は特定の職員が担当していたが、全職員が関わることにより今まで以上に担当事業所の理解に繋がっている。

### （4）財務の健全化の確保

毎月の収支状況の把握を徹底し、特に予算外支出がないかなど経費支出の管理を徹底する観点から毎月の月次決算を励行し、中間時点での収入状況、経費状況などを理事会に報告するなど、適切な収益の確保に向けた取組を行った。

### （5）ガバナンスの強化

理事会は原則として毎月開催し、迅速な意思決定と学園運営のタイムリーな現状報告を行った。また、監事監査を年2回実施し、財務面、業務面の両方から中立的な目線で監査を実施し、特に本年度においては事業所現場での実査ヒアリングを行い実効性のあるものとなった。指摘事項については適時対応することとする。

### （6）リスクマネジメントの強化

新型コロナウイルス感染症対策として、県内の感染状況を確認しながら理事長通達等を出状することにより職員への感染防止の徹底を指示した。

また、「防犯対策マニュアル」を制定し、外部からの不審者の侵入に対する防犯意識を高め、利用者及び職員の安全確保に努める体制を整備した。今後は地域と一体となった開かれた施設

となる事との両立を図っていききたい。

#### (7) 施設整備の実施

「ひまわり棟トイレ・浴室改修工事」を予定していたが、コロナ禍の中での利用者への感染防止対策や利用者の高齢化に伴う工事内容の再考も必要と判断し延期となった。「コスモスホーム」においては、利用者の障害支援区分の変更に伴い、スプリンクラーの設置を行い3月末に完了となった。また、ワークかすみの送迎用車両について長期間の使用による劣化と利用者の安全確保の為、保護者会の援助を受けながら新規車両への入替を実施した。

#### (8) 地域における公益的取組

長畝小学校との「霞ヶ城公園清掃活動」、女形谷自警団と連携した夜間避難訓練、コロナ禍の環境下、実施の見送りや規模の縮小を余儀なくされた。

以上